

専門分野

I. 基礎視能矯正学

大項目	中項目	小項目
1. 視能矯正の枠組み	A. 視能矯正の理念	a. 理念と目的
		b. 視能障害のとらえ方
		c. 保健医療福祉と視能矯正
		d. QOV (quality of vision)
	B. 視能矯正の歴史	
	C. 視能矯正の展開	a. 業務の管理と運営
		b. 患者ニーズと問題点
		c. 治療計画
		d. 効果と評価
		e. 科学的研究の意義と方法
		f. 根拠 (エビデンス) に基づいた医療 (EBM) としての視能矯正
	D. 視能訓練士の倫理	a. 職務倫理
		b. インフォームドコンセント
		c. 対象者の人権
	E. 視能訓練士の教育	
2. 両眼視機能と眼球運動	A. 外眼筋の作用と眼球運動	a. 外眼筋の単独作用
		b. 単眼運動とその法則
		c. 両眼共同運動
		d. 共同筋と拮抗筋
		e. 外眼筋の神経支配
	B. 輻湊・開散と屈折、調節、AC/A 比	a. 定義
		b. 発達
		c. 神経支配と中枢
		d. 種類
		e. 測定法
		f. 正常と異常
	C. 両眼視	a. 定義
		b. 発達
		c. 成立の生理学的機序
		d. 網膜対応・両眼視野
		e. ホロプタと Vieth-Müller の円
		f. Panum の融像感覚圏
		g. 両眼視の成立条件
		h. 融像
		i. 静的立体視、動的立体視
		j. 視野闘争と抑制
		k. 固視ずれ
		l. 不等像視
		m. 複視
	D. 眼位	a. 定義
		b. 眼位の成り立ち
		c. 眼位の異常

専門分野

I. 基礎視能矯正学

大項目	中項目	小項目
		d. 屈折異常と眼位の関係
3. 視能矯正と視覚生理学の基礎	A. 基本的知識	a. 生理光学
		b. 視覚生理学
		c. 視覚心理学
		d. 神経生理学
		e. 視覚の成り立ち
	B. 光覚	a. 網膜の光化学
		b. 明順応
		c. 暗順応
		d. 分光視感効率（比視感度）
	C. 色覚	a. 色の性質
		b. 色覚の学説
		c. 色覚異常の種類と検査
	D. 形態覚	a. 視力の概念
		b. 視力の分類
		c. 視力に影響する因子
		d. 網膜部位と視力
		e. コントラスト感度
	E. 視野	a. 概念
		b. 動的測定と静的測定
		c. 視野に影響する因子
		d. 視野異常
	F. 両眼視機能	a. 正常と異常
		b. 静的立体視
		c. 動的立体視
		d. 動体覚
	G. 眼球運動	a. 固視微動
		b. 共同運動
		c. 非共同運動
		d. 位置覚と自己受容器
		e. 筋の興奮収縮連関
		f. 神経・筋の静止電位と活動電位
	H. 眼の電気生理	a. 電気生理のための基礎知識
b. 電気眼振図（ENG）		
c. 眼球電図（EOG）		
d. 網膜電図（ERG）		
e. 視覚誘発電位（VEP）		
4. 視能矯正と生理光学の基礎	A. 基本的知識	a. 光の性質、幾何光学
		b. レンズ
		c. プリズム
		d. フィルタ
		e. ミラー
		f. 結像と収差

専門分野

I. 基礎視能矯正学

大項目	中項目	小項目
		g. 波動光学
	B. 眼球光学	a. 眼球光学系の特徴
		b. 模型眼とその名称
		c. 屈折・調節の光学
	C. 屈折・調節の異常	a. 近視
		b. 遠視
		c. 乱視
		d. 不同視
		e. 老視
	D. 屈折・調節の検査	a. 屈折検査
		b. 調節検査
	E. 屈折・調節の矯正	a. 眼鏡レンズ
		b. コンタクトレンズ
		c. 眼内レンズ
		d. 手術
		e. 薬物
		f. 調節の治療